

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600116
法人名	医療法人 宇都内科医院
事業所名	グループホーム「日和庵」すわの
所在地	福岡県久留米市西町1046-7 (電話) 0942-35-6860

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成20年5月15日
評価確定日	20年 7月 4日

【情報提供票より】 (平成20年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 6人 非常勤 6人 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 (無)
食材料費	朝食 300 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年3月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 73 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 宇都内科医院、医療法人 松風海 内藤病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の便利の良い市の中心部に立地しながらも、近くには緑豊かな公園もある閑静な住宅地の中に位置している。1階が共用スペース、2階が居室の2階建てで、各所に家庭的な温かさが感じられる配慮がなされており、居心地の良い空間となっている。利用者に穏やかに過ごしてもらいたいと願って「日和庵」と名づけ、その名の通り、穏やかにゆっくりと時間が流れている。職員の温かいケアと地域の方々の支え、また母体の病院からの協力体制もあり、馴染みの地域で安心した生活ができています。開設して2年になるが、経営者や管理者、職員の熱意と質の高いケアを目指す意欲ある姿勢が感じられ、地域密着型サービスとして今後ますます期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や狙いについて、管理者、職員共に十分に理解している。前回の改善項目については、リストアップし得ることから積極的に改善に努めている。「利用者との協働」については、職員間で話し合いをして、機会をなるべく作るように努力した。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員に職員会議の中などで話をし管理者が作成している。自己評価にしっかり取り組むことにより、事業所の運営や日頃の業務などを振り返る機会となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所は運営推進会議の目的や意義を十分に理解し、そこで出た意見や要望をサービスに反映している。会議では利用者や事業所の現状を報告し、地域の方からは消防訓練や地域交流についての意見、家族からは危険箇所への柵の設置等ホームへの要望を出して貰い、運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置し、家族等の来訪時にできるだけ話を聴くようにしている。これまで他医院への通院、入浴の回数などについて相談があったので、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアを積極的に受け入れたり、民生委員などの協力を得てバザーや地域の高齢者との交流会を行ったりして、地域との交流を深める取り組みが見られる。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に地域密着型サービスの視点が含まれ、利用者のケアに努めている。地域の一員として、また家庭的な雰囲気の中で、穏やかに安心して生活ができるように支援していくことを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議や普段の業務で、理念の具体化について話し、管理者、職員が共有し日々実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所便りを回覧し、ボランティアを積極的に受け入れたりと、民生委員などの協力を得てバザーや地域の高齢者との交流会を行うなど、地域との交流を深める取り組みを行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員に職員会議の中等で話し管理者が作成している。前回の改善項目については、リストアップし得ることから積極的に改善に努めている。「利用者との協働」については、職員間で話し合いをして、機会をなるべく作るように努力した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者やサービスの実態を報告している。利用者や事業所の現状を報告し、地域の方からは消防訓練や地域交流についての意見、家族からは危険箇所への柵の設置等ホームへの要望を貰い、運営に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみの連携に留まっている。	○	事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が制度について学ぶ機会が少なく、一部の職員しか制度の理解はできておらず、利用者、家族への説明には至っていない。	○	職員全員が制度についての理解を深めることができるように、研修への参加や勉強会の機会を作してほしい。また活用が必要な利用者等がいる場合には、適確な情報提供を行い関係機関との連携が取れるようにしてほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の家族等の訪問時に、利用者の様子等を伝えている。必要に応じて主治医から直接説明してもらったり緊急時には必ず家族に連絡を取っている。金銭管理については、金銭出納帳を作り、家族等には報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族等の来訪時にできるだけ話を聴くようにしている。これまで他医院への通院、入浴の回数などについて相談があったので、対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑えるため、勤務時間や勤務体制等を考慮している。やむを得なく代わる場合は、引継ぎの期間を十分に取っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢、経験に関係なく、やる気のある人を採用している。事業所で働く職員についても、勤務体制や職員の能力や経験を生かすことができるような配慮をしている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日頃から、利用者の尊厳や人権を尊重することを全職員で心がけ、対応している。</p>	○	<p>行政等で行われる人権教育や研修に参加できる体制を整え、職員の人権意識を高める取り組みを行ってほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修へは一部の職員が個人参加し、職員会議等で研修報告を行っている。</p>	○	<p>職員の経験や習熟度の段階に応じて、学ぶ機会を計画的に確保してほしい。また研修報告書を整備して、全職員が研修内容を確実に共有できる仕組み作りを行ってほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の事業者協議会に加入し、研修等にも参加している。交流のある事業所の管理者に運営推進会議に参加してもらいアドバイスをもらう等、地域の同業者等との交流を広げ、ネットワーク作りやサービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や体験入所を行っている。また家族や関係者から情報を提供してもらい、個別に対応する期間も設け利用者が安心して利用できるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間を大切にしながら、人生の先輩として、生活の知恵や巻き寿司やおはぎの作り方等を教えてもらっている。支援する側、支援される側という一方的な関係にならないように気をつけている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常の関わりや会話、家族等からの情報収集などから、本人の希望や思いなどの把握に努めている。また把握が困難な場合には、職員会議等で協議して検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	いる  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態や本人、家族等の希望や意向を踏まえ、また職員から出た意見を参考にしながら個別の介護計画を立てている。介護計画は利用者や家族に説明して、了承印をもらっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月・3ヶ月の介護計画の期間に応じて、本人・家族の要望や変化に応じた介護計画になるよう見直ししている。各利用者の担当職員を中心にケアカンファレンスをし、状態変化時にはその都度随時見直し、現状に合った計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医療機関、家族との連携により、利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置など多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用前の受診経過、現在の受診の希望を把握してかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。情報の伝達方法についても家族と合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえ医師・職員が連携をとり、状態の変化があるごとに家族に説明している。随時意思を確認しながら全員で方針を共有し取り組んでいる。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員の意識化を図り、諸場面での声かけや対応については、日常的にプライバシー確保を心がけ、ケアを実践している。個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底にも勉強会をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮し、その日その時の本人の気持ちを尊重しながら、安心して過ごせるよう支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、出来る範囲で食事の準備・テーブル拭き・片付けなどを一緒に行っている。食事中、職員は、利用者の介助と見守りを行っている。	○	利用者と職員が共に暮らす視点から、職員は介助や見守りをしながら利用者と同じテーブルで同じ内容の食事をとれるよう、工夫してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、利用者の希望や入浴拒否の人にもタイミングにあわせて柔軟に対応、入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者と話し合い、野菜の皮剥き、テーブル拭き等生活歴を活かした役割分担を決めている。また、編み物、雑巾縫い、花・野菜の手入れなど楽しみごとも含めて一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調・希望に応じて散歩・買い物・ドライブを支援している。ドライブでは、花見や近くのショッピングモールへの買い物に年2回程出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が日中玄関やリビングに鍵をかけることの弊害を理解しており、施錠はない。声掛けと見守りの連携が出来ている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を行っている。	○	非常食や備品を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の嗜好を把握しながら職員で献立を作り、介護日誌に食事内容を記録、写真を残している。また食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録している。個別の栄養摂取量を把握し、定期的に医師がチェックしている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用リビングの一角には和室が設けてあり、寛げるソファもしつらえ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。壁には、外出した時や誕生祝の記念写真、季節に応じたちぎり絵折り紙で作った合同の作品があり、音や光にも配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れた布団、整理筆筒、自分の身の回りの必需品など馴染みのものが持ち込まれている。壁には利用者や家族写真などが貼られ、家族の協力で小さな畳を敷きコタツを置く等の工夫があり、それぞれ個性が感じられる居室になっている。</p>		

※  は、重点項目。